

公益社団法人 横芝光町シルバー人材センター

令和2年度 事業報告書

1. 基本方針

依然としてコロナウィルス感染拡大が猛威を振るう社会情勢の中、なお厳しい労働環境が続いています。

負の遺産を背負って再船出をした当横芝光町シルバー人材センター・事務局ですが、9月1日の総会を経て なんとか令和2年度を迎え、令和2年度を終えることができました。

シルバー人材センターの役割は、地域のシルバーエイジがいかに生き生きと過ごすことができるかを鑑み、その手助けすることだと考えます。

そのために、事業所には何ができるかを追求し、行動に反映させていくことを主にする方針です。

昨年度は、会員の高齢化や連絡不通の事実を受け、正確な会員数の把握をしたため会員数の減少となりましたが、本年度は新規会員の募集広告や入会説明会をすることにより少しずつ新入会員が増えました。

一方で、やはり高齢化の波により退会希望者があることも否定できず 80歳を超えて就業している会員もおり、後継者を育てることも今後の課題と考えます。

引き続き、新入会員の確保と周辺への周知を目指して取り組んでいくことが重要であると再認識しています。

会員の推移

平成30年度	男 91名	女 68名	計 159名
令和 1年度	男 68名	女 56名	計 124名
令和 2年度	男 88名	女 61名	計 149名

2. 安全・適正就業について

令和2年度の事故発生状況

- 傷害事故
- ①令和2年8月5日午前11時頃発生
草刈り作業中、蜂に左腕を刺された。
 - ②令和2年8月8日午後3時30分頃発生
竹林伐採中に捻挫。
 - ③令和2年10月7日午前9時頃発生
草刈り作業中、草刈り機の刃で右足膝負傷。
 - ④令和2年10月20日午後2時頃発生
植木の刈込作業中、バリカンが当たり右手小指負傷。
 - ⑤令和3年1月15日午後3時頃発生
草取り作業中、鎌で左手人差し指負傷。

賠償責任事故はありませんでしたが、残念ながら、上記5件の障害事故が発生しました。

重篤事故には至っていませんが、安全に対する会員一人一人の意識を持つこと、また常に注意をはらい機械の扱いに気を付けることを促すようにしたいです。

3. 事業の概要

年度	契約金額	受注件数	就業延べ人員
平成30年度	101,020 千円	1,119 件	17,246 人
令和1年度	86,378 千円	993 件	14,576 人
令和2年度	88,662 千円	1,059 件	13,678 人

(1) 普及啓発活動について

- ① 令和2年9月より、会員全員に就業状況や理事会・事務局からの発信のため、会員向けだよりを発行し、知人に活動内容を広めていただくようにしました。
- ② 町民会館・町図書館・病院など、町内公共施設にチラシを設置、配布に加えポスターの掲示等、シルバー人材センターの存在と内容周知に努めました。

(2) 就業機会確保と拡充、会員の確保について

- ① 発注者の立場になり、迅速丁寧な仕事を心掛けるようにしました。
- ② 内職の就業確保を目指し、会員の意向と内職環境の調査を実施しました。
- ③ 近隣の企業を訪問し、就業機会の確保に取り組みました。
- ④ 未就業者への聞き取りと相談を実施し対処をしました。
- ⑤ 新聞折り込みチラシと会員の口コミなどによる新入会員確保に努めました。

(3) 安全就業の確保と指導について

- ① 受注後、下見をし、作業内容の確認と危険箇所などの確認・判断をしました。
- ② 屋外就業の際には必ず反射板付きベスト着用を会員に徹底しました。
- ③ ヘルメットの着用も適宜促しました。
- ④ 「安全就業ハンドブックポケット版」を購入し、会員に配布し意識を高めました。
- ⑤ 安全パトロールの実施をしました。(4月～3月 全 19回実施)
- ⑥ 作業班の班長に、事故防止と安全就業を図るよう監督管理をお願いしました。

(4) 派遣事業の拡大について

事務局の職員の派遣法に関する知識・意識を高め、新たに目標値を定め新規の顧客確保が課題です。

(5) 組織運営の見直しと強化について

昨年度から再出発した当横芝光町シルバー人材センターは、課題山積でしたが、近隣のセンター様や連合会のご指導の下 何とか進んできました。

今後は、益々引き締めて役員・職員が一丸となって、組織運営をしていかねばならないと痛感しています。

(6) 福利厚生について

会員のための親睦会(互助会)を設立すべく検討をしていましたが、コロナ禍もあり、今年度は実現できなかったため、来年度は設立を実現させたいです。